

自 己 評 価 表

愛媛県立八幡浜高等学校 定時制
学 校 番 号 (34)

教育方針	1 校訓「勉学 礼儀 健康 融和 奉仕」を基調として、地域社会の形成者としての資質・能力を養う。 2 社会の変化に柔軟に対応し、自らの進路を切り拓く確かな学力を育成する。 3 個性を尊重し、国際的視野を持った心豊かな人間を育成する。 4 安全・安心で充実した教育環境のもと、社会で生きる力を育む。	重点目標	主体的に行動する生徒の育成 1 豊かな人間性の育成 2 健全な身体の育成 3 個性の伸長と自ら学ぶ力の育成
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	確かな学力の育成	生徒が主体的に学習できるよう指導方法を研究するとともに、興味・関心等の実態に即して教材の工夫・改善に努め、学校評価アンケート及び生徒による授業評価アンケート総平均で4.4以上を目指す。	B	教員評価では4.7だが、生徒評価アンケートの総平均では4.4であるため評価はBとした。保護者の評価は3.7であり、指導方法や指導内容の工夫・改善が十分に理解されていると言えない。	クラス内での学力差が大きい、習熟度の低い生徒に対する基礎・基本を重視した授業の実践を重視し、学習内容の定着を図る。
	言語能力の育成	各教科で言語活動の充実を図りながら主体的に取り組める授業を実践し、学校評価アンケートで該当項目の4.4以上を目指す。	B	教員評価は4.3と昨年度に比べて低下しているが、生徒評価アンケートでは3.7から4.0と向上しているため評価はBとした。	授業中に自分の考えを発表することが苦手な生徒が多いが、発問を工夫しながら主体性を重視した授業を実践する。
特別活動	学校行事、各種大会への積極的な参加	集団への所属感や連帯感を養いながら各種学校行事、定通制総合体育大会や生活体験発表大会に主体的に参加できる生徒の育成を目指す。	B	県定通制総体3名出場、生徒生活体験発表南予大会最優秀賞・県大会努力賞など学校行事に主体的に参加できる生徒もいる一方で、集団行動を苦手とし、参加しにくい生徒もいる。	様々な行事に、主体的・積極的に取り組めるよう、生徒からの要望も取り入れながら行事運営に努めたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	5分前行動を定着させ、規則正しい学校生活を送らせる。	B	各教科担任からの声掛け等もあり、次の授業に向けて切り替えることのできる生徒が増えた。	5分前行動の指導を継続するとともに、落ち着いて授業に取り組める環境づくりにも努めたい。
		挨拶を交わすことの必要性や大切さを理解させながら、場に応じた挨拶を定着させる。	B	学年が上がるごとに、日常的な挨拶や職員室入退室時の挨拶がしっかりとできる生徒が増えている。	入学時から継続して、挨拶ができるよう指導に取り組む。
	生徒理解の充実	年間6回以上の個人面接を行う。 A：6回以上 B：5回 C：4回 D：3回 E：2回以下	A	ホームルーム担任による学期ごとの面談に加えて、必要な生徒には+αの面談を実施することができた。	これまでの担任による指導を継続しながら、教員間でも情報を共有し、生徒指導に取り組む。
	交通安全指導の充実	交通ルールの遵守やマナーの向上により、事故0・違反0を目指す。	A	登下校時の交通事故・違反0であった。	非行防止教室や日々の交通指導を通して無事故・無違反を目指す。
進路指導	生徒の適性と進路希望を踏まえた進路指導の充実	進路希望調査や学びの基礎診断（八定BASIC）により生徒理解を深める。また、様々な進路情報を適宜提供し、進路への関心を高める。	B	八定BASICを実施し、活用した。パンフレットの配布や職業体験の実施により、進路への関心を高めることができた。	就職に関する指導支援の工夫。
	生徒の希望進路の実現	保護者等やハローワークとの連携を深めながら、生徒の実態に応じて就労を支援する。進路に対する意識啓発や個別指導を行い、進路決定100%を実現する。	B	就労率は8割で、安定した就労状況である。進学希望者の進路決定率100%の実現を目指し、教職員が連携して個別指導を行った。また、就職希望者については、保護者と連携を図り、本人の希望に沿った進路実現に向けて取り組んだ。	保護者や関係機関との連携を更に深め、本人の適性を考慮した進路実現を目指す。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
人権・同和教育	人権意識の高揚	研修に積極的に参加し、得た情報を共有・活用して生徒の人権意識向上を図るとともに、自身の指導力向上に努める。	B	校内研修を実施し、生徒が意欲的に取り組めるように工夫してホームルーム活動等を行い、生徒の人権意識の向上を図ることができた。校外研修の内容の共有・活用に関しては十分とはいえない。	校外研修に積極的に参加し、そこで得た情報を共有して、校内での人権・同和教育に生かせるように努める。
保健管理	健康意識の向上	養護教諭と連携して、「保健だより」を発行し、健康の保持増進を図る。 手洗い、うがいや手指消毒などを徹底させ、健康への意識向上を図る。	A	養護教諭指導のもと、生徒の意見を取り入れて、毎月「保健だより」を発行することができた。健康維持・増進への意識向上につなげることができた	今年度に引き続き、「保健だより」の発行等を活用して、健康の保持・増進を図りたい。自分でできる、手洗い・うがい、手指消毒を徹底することで、健康への意識向上を図る。
安全管理	防災意識の向上と緊急時の対応	各学期の防災避難訓練を通して、緊急時の対応を周知徹底するとともに、定期的に防災関係の情報を提供する。	B	生徒自身が積極的にAED講習会に参加して、充実した研修になった。防災意識の向上が図れた。	定期的に情報提供を行うとともに、災害に対する備えを徹底させる。防災避難訓練がマンネリ化しないように工夫をする。
特別支援教育	校内研修会の実施	各種研修会報告で得た情報を全教員が共有して特別支援教育に対する理解を深め、実践力を高める。	B	各種研修会で得た情報を教職員間で共有し、特別支援教育に対する理解を深めることができた。	特別支援に関する実践力を高める研修の実施に努める。
	生徒の実態把握及び関係諸機関との連携	少人数のメリットを生かし、生徒一人ひとりの実態把握を早期に行う。 関係諸機関と連携して生徒の実態に適した支援の実践に努める。	C	生徒の状況について教職員間で情報を共有し、支援につなげることができた。 関係機関と連携することはなかった。	保護者や関係諸機関との連携を図る。
研修	教職員の資質の向上	校内外の各種研修会に積極的に参加し、研修内容を教員間で共有する。 ICT機器を積極的に用い、ICT活用能力の向上を図る。	B	校内での大きな行事を中心として、各種研修会に参加することができた。またICT機器の活用法を模索しながら、授業力の向上を図ることができた。	校内における研修会への積極的な参加を促し、全教員の資質の向上に努める。ICT機器を活用して、ICT機器を用いた指導力の向上を図る。
保護者等との連携	広報活動の充実	「八定だより」や「保健だより」、学校ホームページを通じて、教育活動に関する情報を提供する。	A	「八定だより」やホームページをとおして、生徒の学校での活動の様子を伝えることができた。	毎月の「八定だより」の発行やホームページを頻繁に更新することを今後も続けていく。保護者に安心感を届けることで、学校に対する信頼感を強めていく。
		普段から保護者等との情報交換に努める。 また、保護者等懇談会や家庭訪問、学校行事等を通して学校と家庭の連携を図る。	B	今年度は、公開授業、校内生活体験発表大会、体育祭等の様々な行事に、例年以上に多くの保護者に参観していただいた。	今後も家庭との連携を図るため、連絡を密にして、保護者との情報交換に努めていきたい。より多くの保護者等が気軽に参観できるように工夫する。
業務改善	適切な勤務時間と休暇取得による働きやすい職場づくり	休息時間を確保したうえで教職員の勤務時間を守り、休暇をとりやすい環境をつくる。 全教職員が年間7日以上休暇を取得し、心身のリフレッシュに努める。	A	休暇を取りやすい雰囲気を作り、全教職員が7日以上休暇を取得することができた。	長期休業中の休暇に加え、平日の時間休暇を取りやすい状況及び雰囲気づくりに努める。
	職場環境の整備	健康相談等を定期的に行い、業務の均等化や教職員の肉体的・精神的疲労の軽減を図る。 職員室の整理整頓に努め、毎月1日の職員室清掃日を設ける。	B	互いに協力して業務を行うことができたが、職員室清掃を実施できない月があった。	年間行事において、職員室清掃日を予定しておく。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。